



事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定年月日	交付金額 (単位:円)
		事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
1 青少年健全育成と生涯学習促進事業	特定非営利活動法人 城山スポーツ&カルチャークラブ めいぷる	相模原市を象徴する"宇宙"をテーマに、親子、大人を対象にした参加型イベントを実施することによって、未来ある子どもたちの健全育成、親子のふれあいの親交、地域住民間の交流促進を図り、もって青少年の健全育成に資することを目的とします。	【宇宙の学校】 H30.7.1 @淵野辺東小: 開校式・記念講演・葉脈標本づくり 14組 H30.9.22@もみじホール: お話「地球と月」・家庭学習発表会 6組 H30.10.13@もみじホール: スクーリング「ロケットの姿勢制御」・かさ袋ロケットづくり 11組 H30.12.9@もみじホール: スクーリング「ロケット推進力」・スポイトロケットづくり・宇宙のお話・修了式 11組 【しるやま宇宙対話】 H30.8.27 宇宙科学研究所見学 5名 H30.10.28@公民館: 宇宙の話と対話・長く飛ぶ紙飛行機づくり 11名 H30.12.23@公民館: 宇宙の話と対話・はんだ付け体験 10名 H31.2.11@もみじホール: 講演「宇宙と私」・スポイトロケットづくり 20名	親子の協働作業の実践としての「宇宙の学校」と、宇宙や社会の一面を通して、議論ではなく互いを理解すること及びものづくり体験の有益性を認識してもらうことを目的とした「しるやま宇宙対話」は、いずれも、現在の社会に欠落・不足しているコミュニケーションスキルの向上及び未来を担う子どもたちの健全育成、親子のふれあいの親交、地域住民間の交流促進を図るため、大変有意義な事業であった。自らを客観的にみることが、宇宙空間から地球をみるのと同じであり、そのような視点が少しは参加者に認識されたと考える。	「宇宙の学校」は、参加者が定着してきており、その目的が理解されてきたとみることができる。「しるやま宇宙対話」は、初めての試みであったが、参加者から面白いとの感想を得ることができた。まずは、ひとつのグループからスタートし、徐々に参加者が増えていけばいいと長期的に構えている。また、運営スタッフの育成も併せて取り組むべき課題であることが改めて見えてきた。運営スタッフの数が参加者の上限を決定することになる。そのため、今後はスタッフの育成に取り組んでいきたい。	H30.4.23	230,000
2 城北ヒガンバナ育成事業	城北ヒガンバナを育てる会	昔ながらの心温まる里地里山の風景を将来にわたって維持し、春夏秋冬と一年中花が咲く「花の里城北」を次世代への財産として継承するとともに、城北地域の豊かな自然環境を市内外に広くPRし、もって地域の環境の保護・保全を図ることを目的とします。 また、植栽や草刈などの作業を通じ、地域内の高齢者世代、若者世代のコミュニケーションの場を創出することを目的とします。	1 ヒガンバナ球根植え付け 実施日 平成30年6月30日(土) 植え付け場所 城北六川地域の田畑の畔 参加者 自治会員、育成会、法政大学などの大学生 70名 植え付け数 5,000個 2 見学会 実施日 平成30年9月23日(日) 参加者 自治会員、育成会、法政大学などの大学生 70名	春には桜、初夏にはアジサイ、秋にはヒガンバナと一年中花が咲く「花の里城北」をめざした取り組みを実施することができた。 見学会を通じて地域内の人々にPRすることができた。 見学会参加者70名	今年度は、3年間の実施計画の最終年度となり、5,000球のヒガンバナの球根を植えつけた。これまで植え付けを行ったヒガンバナが咲き誇り、多くのハイカーや地域内を散歩する人々の目を楽しませられるような風景を作り上げる礎ができたことには満足している。	H30.4.23	530,000
3 城山夏まつり	城山夏まつり実行委員会	来場者の安全確保体制の充実を図るとともに、まつりを盛り上げる余興やイベントで出演者・来場者が一体となれるような活気ある雰囲気づくりを行い、もって地域の活性化と伝統文化の発展・継承を図ることを目的とします。	開催日: 8月27日(月)・28日(火) 内容: 神輿渡御、山車の運行、祭囃子の競演、花火大会、歌謡ショーなど 周知: チラシの配布(城山・二本松・相原) 来場者数: 8月27日(月) 20,000人 8月28日(火) 40,000人	城山夏まつりは、年々来場者も増加し、城山地区の活性化にも大きく寄与してきた。しかしながら、来場者の増加に伴い、安全確保体制をより一層充実させることが喫緊の課題となっていた。 こうした状況の中、本年度は、警備体制をより強化し、適正な配置を行うことで、神輿・山車の運行やイベント会場周辺の交通整理、来場者の駐車場が確保され、これまで以上に安全で円滑な事業運営が図れた。 また、今年度は、民放テレビ局の取材もあったことから、城山夏まつりについて、地区内外に広く周知を図ることができ、城山地区の知名度の向上に繋がった。	近年の来場者数の増加に伴い、安全確保体制の充実が喫緊の課題であったが、警備体制の強化や適正な配置をすることにより、課題解消へ向けての取り組みを行うことができ、これまで以上に安全で円滑な事業運営が図れたことは大きな成果であった。 また、地区内に10ある囃子連の中で、新規入会の児童・生徒がいる等、着実に地域の伝統・文化の継承もできていると自己評価している。 さらに、今年度は民放テレビ局の取材もあったことから、会場周辺は多くの来場者で賑わい、地域の活性化が図られたことについても満足している。 今後も、安全確保体制の充実を図るとともに伝統文化の発展・継承について、各種団体との連携により、地域全体に相乗効果が芽生えるような事業として継続していきたい。	H30.4.23	650,000

	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
4	「城山地区で本物に触れよう」	城山地区青少年健全育成協議会	子どもたちが地域で伝統文化や民俗芸能に触れる機会を提供するとともに、その企画、運営、立案、実施の段階に、地域の大人だけでなく、中学生、高校生、大学生などの参画を進め、地域の子どもたちを地域が共に見守り育てる「地域の共育力」の再生を図るとともに、こうした取組を通じて青少年の地域に対する愛着心を育み、もって青少年の健全育成に資することを目的とします。	開催日:11月18日(日) 内容:若葉台囃子連による演奏、狂言師による演出 周知:地域情報紙への掲載、自治会等掲示板へのポスター掲示など 来場者数:約167人	情操教育の一環として、地域の子どもたちが日本の伝統文化の一つである一流の狂言に触れる機会を提供することができた。併せて地域で活躍する囃子連に声をかけ、囃子連の子どもたちにも演奏してもらうなど、団体間の連携を図ることができた。また、地域内の学校を会場としたことで、周辺地域の方々にも会場に足を運んでいただくことができた。	子どもたちが、一流の芸術や日本古来の伝統文化に触れる機会は多くない。そのような中で、貴重な機会を提供することができたことには満足している。また、当初の予定にはなかったが、会場となった広陵小学校のエリアで活動する囃子連に声をかけ、囃子連の子どもたちに演奏する側として参加してもらえたことは、観ている子どもたちにも影響を与えるものであり、当会と囃子連の連携が図られたものとして大きな意味があったと考えている。 今回、ポスターの掲示や各学校へのチラシの配布などを行い、周知を図ったが、思いのほか子どもの来場数が少なかったことは反省点である。	H30.4.23	700,000
5	多世代が安心して幸せに暮らせるまちづくり「若葉台住宅の魅力づくりと情報発信事業」	若葉台住宅を考える会	若葉台住宅の魅力の掘り起こしや魅力づくりを行うと共に、こうした地域独自の魅力を外部に向けて発信することにより、空き家への入居促進を図り、ゴースタウン化・高齢化に歯止めをかけることを目的とします。	1)ドローンによる空中撮影で、若葉台地区及び周辺エリアの四季を撮影し、短編の動画に仕上げ、城山地区の情報を発信。 2)会独自のホームページを立ち上げ、1)の動画をともに若葉台の情報や周辺の観光情報を広く発信。 3)思いやりベンチを10基、会員のDIYで製作し、若葉台の急坂の途中に設置し、高齢者の歩行の助けとする。	当会の目的の一つである若葉台住宅の情報発信について、ホームページおよびドローン撮影による動画で外部に発信し、半年間で1700件以上の閲覧者があった。 また、当会の活動が知られることになり、タウンニュース社が取材に訪れ、3月21日付けの緑区版に掲載され緑区全戸に配布され、JCOM-TVのローカルニュースでも活動を放映がされるなど、当会の活動及び若葉台住宅について地区外へ情報発信が図られた。 地区内においては、自主事業として実施している朝市、サロン活動を通じて当会の認知度の向上を図り、地区住民の方々から好評を得るとともに感謝されている。	地域活性化交付金の初年度運用でしたが、ほぼ計画を達成し満足のいくものだった。また、当会の活動に好意的な協力者を見つけることができ、新たに5名が当会に加入したことは、当会の活動に対する理解が広まっていることを示していると認識している。 ただし、地域の団体との連携はまだまだ不十分であり、この掘り起こしが平成31年度以降の課題として持ち越された。	H30.4.23	336,000
6	「緊急連絡カード」普及促進事業	自治会法人城山自治会	自治会加入者・未加入者を問わず、城山自治会エリア内の全戸に「緊急連絡カード」を作成・配布することによって、自治会が中心となった地域における見守り機能の向上、緊急時や災害時における対応力の強化を図ることを目的とします。	自治会加入全世帯(309世帯)に配布 自治会未加入世帯、緊急時要援護者及び障がいを持った方のいる世帯約400世帯に配布	自治会内では、高齢化が進むとともに、さらには次世代の地域からの流出も進んでいる。また、地域コミュニティーの希薄化等により住民相互の見守り機能が低下し、過去には孤独死の事案も発生している。 このような状況の中、今回、緊急連絡カードを整備したことにより、地域の見守り機能の必要性についての意識が向上し、緊急時、災害時の対応力の向上を図ることができた。さらに、自治会未加入世帯に配布する際に、自治会加入促進パンフレットを併せて配布したことにより、自治会活動や消防団活動への理解を深めることができ、新たに1世帯の新規加入があった。	自治会内において、地域コミュニティーの希薄化等により住民相互の見守り機能が低下してきている中で、災害時だけでなく普段の生活の中での見守り等が課題となっていた。 今回、緊急連絡カードを整備して、自治会加入世帯や要援護者世帯に配布したことにより、隣近所で助け合うという共助の意識を向上させることができたことや、さらに自治会への加入世帯があったことは大きな成果である。 今後は、緊急連絡カードの適宜見直しや防災訓練時のPR等、取り組みをさらに発展させ、地域内での見守りを充実させるとともに、自治会未加入者に共助の必要性を説明し自治会の加入促進を図っていきたい。	H30.4.23	250,000

	事業等の名称	団体名	事業実績の概要				交付決定 年月日	交付金額 (単位:円)
			事業の目的	事業の実績	事業の成果	事業実施団体による自己評価		
7	地域における緊急時の 対応力向上事業	自治会法人久保沢自 治会	地域での緊急時の対応力の向上及 び自治会加入率の向上を図ることを 目的とします。	自治会加入全世帯(570世帯)に 配布 自治会未加入世帯のうち緊急時要 援護者や障がいを持った方のいる世 帯30世帯に配布	自治会加入促進活動として、自治 会独自で作成した地区の防災マップ や防災チェックシート、自治会だより を自治会未加入世帯に配布する際 に、併せて、今回作成した「緊急連絡 カード(ケース入)を配布したことによ り、新たに5世帯の新規加入があっ た。 また、自然災害(大地震や風水害) 等、災害時を想定した対応は、従前 より自治会でも進めてきているが、今 回、緊急連絡カードを整備したこと により、災害時だけでなく、日常生活 中での緊急時の対応力も向上させる ことができた。	自治会内において高齢者世帯や一 人暮らし世帯が増加してきている中 で、従前より、災害時だけでなく普段 の生活の中での見守り等が課題と なっていた。 今回、緊急連絡カードを整備して、 自治会加入世帯や要援護者世帯に 配布したことにより、隣近所で助け合 うという精神を思い起こすきっかけや 環境を整備することができたことや、 さらに自治会への加入世帯が5世帯 あったことは大きい。 今後、こうした取り組みをさらに発展 させ、地域内での見守りを充実してい きたい。	H30.4.23	150,000
							2,846,000	